

錦糸町わくわく通信

2025.5

(5月16日発行)

第49号

●お問合せ●
東都よみうり新聞社
TEL.03-6663-9010

すみだボクシング祭り2025

ボクシングを「する・みる・ささえる」無料のイベント。東京2020大会でボクシング競技会場になった墨田区で大会レガシーとして開かれています。今年は「ジュニアチャンピオンズリーグ全国大会」(主催・日本プロボクシング協会)予選大会も開催します。



小さな子どもボクシングの楽しさを体験できる

- 【日時】令和7年5月17日(土) 午前10時～午後5時頃
 【場所】墨田区総合体育館 3階 メインアリーナ・サブアリーナ
 【主催】すみだスポーツレガシー実行委員会、墨田区
 【内容】・ゲストボクサートークイベント
 (佐々木尽選手、平岡アンディ選手、堤聖也選手ほか)
 ・ブラインドボクシングPRイベント
 ・王者へのミット打ち体験、記念撮影、サイン会
 ・ボクシング入門ゾーン(サンドバッグ体験など)
 ・VR体験、スマートeスポーツ
 ・子ども向け縁日、バンテージ巻き体験
 ・飲食販売、オリジナルグッズ販売 など
 ※詳細はイベントホームページへ

【問い合わせ】墨田区スポーツ振興課 ☎03-5608-6312



今年は縁日エリアを拡大



元世界2階級王者の畑山隆則さん(右)と、第36代IBF世界スーパーフェザー級チャンピオン尾川堅一選手(中央)をゲストに迎えた昨年のトークイベント

モクシー東京錦糸町 メキシカンフェア



緑のトマティロソースと赤のチポトレソースが楽しめる「2色のフラウタ」



鰻たまタコス(左)とベジミートタコス(右)

- 【期間】5月31日(土)まで
 【場所】モクシー東京錦糸町
 (墨田区江東橋3-4-2)

【内容】本格的なメキシカンメニューのフラウタ(トルティヤに具材を詰めて巻き、油で揚げた料理)にトマティロ(食用ほおずき)、チポトレ(トウガラシ)のソースを添えた「2色のフラウタ」(1550円)や、「鰻たまタコス」(1個700円)、「ベジミートタコス」(1個500円)などオリジナルメニューを提供する。

【問い合わせ】モクシー東京錦糸町

☎03-5624-8801

様々な肉料理の
屋台が集まる



ニクオン2025

5月24日・25日開催

肉料理と音楽の祭典「ニクオン2025～肉ハジケテ、音シタタル。」が錦糸公園で開催される。

【日時】 5月24日(土)・25日(日)
午前11時～午後7時頃

【場所】 錦糸公園

【内容】

キッチンカーや屋台による飲食店の肉料理提供(牛スジ塩煮込み、自家製炙りチャーシュー、エスペチョーニなど)、プロミュージシャンによるステージ演奏(大澤誉志幸、鈴木康博ほか多数出演)

【問い合わせ】ニクオン実行委員会 info@nikuon.com



盛り上がりを見せる
ステージ演奏

「錦糸公園桜まつり」で スポーツイベント開催

錦糸町にゆかりがあり「錦糸町を元気にする会」の会員になっているプロスポーツ団体が「錦糸公園桜まつり」(3月8日～4月13日)の盛り上げに貢献した。

3月22日と4月5日に開かれたスポーツ体験イベントは、花見客でにぎわう公園内の一角が会場になり、「DANGAN」によるボクシングミット打ち、「日本プロ野球OBクラブ」のバッティング体験、小さな子どもゴールを狙えるフットサルチーム「フウガドールすみだ」の「キックターゲット」やプロハンドボールチーム「ジークスター東京」の「ターゲットチャレンジ」などが行われた。5日は「日本ストリートサッカー協会」によるコーナーも設けられた。



「ジークスター東京」のダンスチームがパフォーマンスを披露した

このほかに「ジークスター東京」のチアパフォーマンスを担当するダンスチームが登場し、ホワイトタイガーの公式マスコットキャラクター「ジスター」とともにダンスを披露した。

小学生以下の子供たちが各日
200人以上参加した

それぞれの持ち味が魅力的な 雑貨マーケットに こう・すみ・たいプロジェクト 下町にゃんフェスタ

江東区・墨田区・台東区の福祉作業所が
錦糸町テルミナで開催

福祉作業所に通う人の工賃向上をめざして江東区、墨田区、台東区の施設が連携したイベント「こう・すみ・たいプロジェクト～下町にゃんフェスタ」が、錦糸町テルミナで3月22日から30日まで開かれた。期間中は9つの施設が参加し、「猫とアート」をテーマに各施設で制作したグッズの販売や絵画作品の展示が「テルミナ」4階のイベントスペースで行われた。



買い物客などの往来が
ある錦糸町駅ビル内のイ
ベ
ント
ス
ペ
ー
ス
で
開
か
れ
た

墨田区では福祉作業所の生産品の開発、製造、販売にクリエイターや町工場、商業施設などが支援して魅力的な商品づくりに取り組む「すみのわプロジェクト」が2014年に始まった。近年は中間支援に関わるクリエイター間のネットワークによって

近隣区の施設同士が結びつく新たな活動に発展している。2024年3月には錦糸町ステーションビルからJR錦糸町駅の駅ビルでの販売機会の協力を得て墨田区と台東区の施設が「すみ・たいプロジェクト」を初開催した。今回は江東区の施設も加わり、2回の週末を含む開催期間の中で美術作品の展示や革のケーブルホルダーなどを作るワークショップも実施した。

デザイナーのアドバイスも生かした作業所の生産品はバラエティに富み、江戸浮世絵風のイラストがスタイリッシュなコーヒートンや、脱力系のネコキャラクターをブランド化した小物やスイーツなど、施設ごとに異なる味わいを楽しめる。当日は、利用者の描いたイラストをパッケージに活用した墨田区内の紅茶店とのコラボ商品も注目を集めていた。「すみのわ」

コーディネーターの三田大介さんは「商業施設内での開催により、出店する福祉作業所の関係者にとっても家族で出かける良い機会になった」と話していた。イベントは終了したが、墨田区内の福祉作業所の生産品は墨田区役所に火曜日と木曜日に出店する「スカイワゴン」でも購入できる。



「ネコ」や「アート」をテーマにした江東区平野のアトリエに
つと
の
絵
画
作
品



ネコのキャラクターが
個性的な台東区下
谷「耕房」の「こう
かがやき」の生産品



墨田区内で作られた
紅茶のコラボ商品を
持参した三田さん